

Genetic assessment of recurrent pancreatic high-risk lesions in the remnant pancreas: Metachronous multifocal lesion or local recurrence?

後藤, 佳登

<https://hdl.handle.net/2324/2236124>

出版情報 : Kyushu University, 2018, 博士 (医学), 課程博士
バージョン :
権利関係 :

(別紙様式2)

氏名	後藤 佳登
論文名	Genetic assessment of recurrent pancreatic high-risk lesions in the remnant pancreas: Metachronous multifocal lesion or local recurrence?
論文調査委員	主査 九州大学 教授 加藤 聖子 副査 九州大学 教授 本田 浩 副査 九州大学 教授 伊藤 隆司

論文審査の結果の要旨

初回膵癌高リスク病変（通常型膵腺管癌もしくは上皮内癌．以下“膵癌”とする．）術後の残膵癌が異時性多発膵癌なのか局所再発なのかを診断することは困難な場合が多い．申請者らは遺伝子学的解析を用いて残膵癌の分類を試みることを目的とした．残膵癌に対して根治的膵切除を行った12例の臨床病理学的項目を解析した．さらに膵癌を代表する主要四遺伝子である *KRAS*, *TP53*, *CDKN2A*, *SMAD4* の遺伝子変異解析を行い，さらに膵癌に関連する遺伝子を標的とした次世代シーケンス解析（Next generation sequencing ; NGS）を行った．4例は初回病変と残膵癌の主要四遺伝子変異様式が同一であったが，残りの8例は異なる結果となり，前者4例が局所再発，後者8例が異時性多発膵癌と考えられた．残膵癌切除後の再発率および疾患特異的生存率は有意に異時性多発膵癌群で良好であった．異時性多発群と局所再発群で初回病変と残膵癌病変のターゲット NGS を行い，ファウンダー変異の比較を行ったところ，局所再発群は初回病変と残膵癌病変のファウンダー変異が共通することが示された．以上より，遺伝子学的解析は残膵癌病変が異時性多発膵癌もしくは局所再発であるかを診断する一助となりうることを示唆された．

以上の成績はこの方面の研究に知見を与えた意義ある成果であると考えられる。

本論文についての試験は論文の研究目的、方法、実験成績などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行い、いずれについても適切な回答を得た。なお、本論文は共著者10名のため、申請者の役割・貢献度を尋ね、本人が主導的役割を果たしていることを確認した。

よって、調査委員合議の結果、試験は合格と決定した。